

環境基本計画の見直しに係る重点分野「地球温暖化対策」について

第三次環境基本計画策定時

1 現状と課題

- (1) 地球温暖化に関する科学的知見
- (2) 国際的な対策の枠組み
- (3) 国内における対策

2 目標

- (1) 究極の目標
- (2) 中長期的目標
- (3) 当面の目標

3 施策の基本的方向

- (1) 京都議定書の6%削減約束の確実な達成
 - ア すべての主体の参加・連携の促進
 - イ 多様な政策手段の活用
 - ウ 評価・見直しプロセス(PDCA)の重視
- (2) さらなる長期的、継続的な排出削減等
 - ア バックカスティング手法の重要性
 - イ 中長期的な国内対策のあり方
 - ウ 新たな国際枠組みの検討
 - エ 避けられない影響への適応策

4 重点的取組事項

- (1) 国内対策
 - ア エネルギー起源CO2の排出削減対策
 - イ その他の対策・施策
 - ウ ポリシーミックスの活用
- (2) 国際的連携の確保

5 取組推進に向けた目標

- (1) 取組全体に関する目標
- (2) 個々の主体からのCO2排出量等に関する目安

前回からの状況変化

- ・地球温暖化の影響顕在化・深刻化
- ・IPCC等での知見の集積
- ・国際交渉の進展
- ・東日本大震災、原発事故(→電力需給逼迫)
- ・価値観の変化
- ・第一約束期間の排出量や取組実績
- ・社会経済状況の変化(人口、GDP、資源・エネルギー等)
- ・グリーンニューディール

第四次基本計画策定に向けた「中間とりまとめ」におけるポイント

- ・国際情勢に的確に対応した戦略をもった取組の強化
- ・持続可能な社会の基盤となる国土・自然の維持・形成
- ・地域をはじめ様々な場における多様な主体による行動と協働の推進
- ・地球温暖化対策については影響が顕在化
- ・国際的に全ての主要国が参加する公平かつ実効性のある国際枠組み
- ・地球規模での大幅な排出削減が必要であることが国際的な共通認識
- ・低炭素社会を構築するための国内での各種対策等を切れ目なく実行
- ・既に避けられない気候変動の影響に対し適応策を実施

第四次環境基本計画策定に向けて

①これまでの取組状況と課題

- 地球温暖化対策に関する科学的知見
- 国際的な対策の枠組み
- 国内における対策
-

②中長期的な目標

- 究極の目標
- 長期的目標
- 中期的目標
-

③施策の基本的方向

- 基本的な視点
- 配慮すべき事項、留意点
- 各主体の役割
-

④取組推進に向けた指標及び具体的な目標

- 京都議定書目標達成計画における目標
-